



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

当校は、20年以上にわたり「ふるさと環境学習」に取り組んでいます。活動内容は自然環境の保全、作物栽培、伝統文化の継承など多岐にわたります。その中から主な活動について報告します。

#### 1 飛渡川で遊ぼう

飛渡川での体験活動「川遊びの会」を地域の支援団体「濃実会」、公民館との共催で7月の最終日曜日に行っています。地域挙げての行事として24回目となります。内容は、以下のものです。

- ① 魚のつかみどり ②川探検 ③クリーン作戦 ④イワナの放流  
⑤川をせきとめた天然プール遊び

他にも、つかみどりで捕まえた魚を昼食に焼いて食べたり、学校菜園で収穫したジャガイモを入れた豚汁も用意され、参会者にふるまわれたりします。飛渡地域内限定の会ですが、知り合いなど他地域の参加者も受け入れ、今年も100人を大きく上回る参加者で賑わいました。



<川探検>

<天然プール遊び>

#### 2 EM菌でプール清掃



<EM菌の培養液作り>

少しでも環境にやさしいプール清掃を行うために、EM菌を培養してプール清掃を行っています。自然素材のEM菌培養液を使うことで、化学薬品や洗剤を使わずにすみます。少人数の当校では楽に綺麗にすることもできるので助かっています。培養液は2回プールに投入します。今年から、米のとぎ汁の代わりに米ぬかを布袋に入れてエキスを絞り出す方法に変えて行いました。



<EM菌培養液投入>

### 3 野菜の栽培

毎年、ジャガイモ、夏野菜、さつまいも、大根を育てています。畑の先生から教えていただきながら、水やり等の世話や観察を行いながら収穫の喜びを感じ取っています。無農薬のため虫に葉を食べられたりして大変さもありますが、毎日観察し大事に育てています。ジャガイモやポップコーンは、川遊びの会や文化祭等地域行事用に使います。



<サツマイモ植え>

また、指導して下さる地域の畑の先生や活動を支援して下さった方々を招いて収穫感謝の会を行いました。収穫したじゃがいもやサツマイモを食材に使いおもてなししました。5・6年生が準備したメニューは、ご飯（スマイルぴかぴか飛渡米）、サツマイモのきんぴら、ジャガイモのチヂミ、味噌汁です。



<収穫感謝の会>

### 4 米作り

地域の農家から田んぼを借用し、毎年コシヒカリ栽培に取り組んでいます。田んぼの先生から教えていただきながら、手で苗を植えたり、手で稲を刈ったりと手作業で取り組んでいます。今年は5・6年生が中心となって活動を進めました。他地域の米作りについても調べ、文化祭で発表したり、米作りをしている学校と交流をしたりしました。



全校田植え

全校で行う田植えや稲刈りには地域の老人会の方々からご支援をいただき、作業の仕方を学びました。毎年行っている活動なので、高学年にもなると、手際よく田植えや稲刈りを進めていました。



全校稲刈り

収穫した米は、地元で開催される「てづくり市」で販売したり、文化祭でPTAの協力を得て地域の方に食べていただいたりしました。「てづくり市」では、昨年は販売することができなかつたため、「スマイルぴかぴか飛渡米」の販売を待っている人もいて、30分で用意した米が完売しました。また、米を食べた感想が続々と届き、「おいしかった。」「元気ががんばって。」というメッセージをいただき、次の活動のエネルギーにもなりました。



てづくり市



## 5 伝統を受け継ぐ

地域に残されている伝統を受け継ぐ活動では、伝統芸能や地域信仰等について学ぶ活動を行っています。

### (1) 石投げおけさ・健康体操

地域に伝わる「石投げおけさ」と「十日町小唄」をあわせおけさ保存会のみなさんから教えていただいています。そして、地域の運動会や文化祭で一緒に踊っています。また、老人クラブが健康を保つためにやっている「健康体操」も健康教室の講師の方から教えてもらい、お年寄りと文化祭で一緒に披露しています。どちらもお年寄りの方々とふれあいができる穏やかな時間をつくることにつながっています。



<みんなで健康体操>



<石投げおけさ講習会>

### (2) わら細工づくり

老人クラブの皆さんの指導の下、全校児童がわら細工に取り組みました。丁寧なご指導のおかげでとても立派なわら草履やわらじが完成しました。

6年生児童は、昨年度片足だけ完成させていたので、今年度は、もう片方を作成し、両足分が出来上がりとても喜んでいました。また、難しいわらじ作りにも挑戦していました。1年生は初めての縄緬いに苦戦していましたが、最後には自分の作品（半足）に達成感いっぱいでした。どの学年の児童も自分の草履を完成させようと、老人クラブの人に進んでやり方を教えてもらいに行き、関わりを深めていました。



<わらじ作り>

### (3) オンビロ作りとさいの神



<オンビロ作り>

さいの神に使うオンビロの製作は、5・6年生が担当しました。「オンビロ」は、学区にある新水地区に伝わる「オンビロ」という行事で、五色の紙をさいて細長くした「オンビロ」を竹の先に付け、さいの神が勢いよく燃えたときの上昇気流に乗せて飛ばします。高く遠くに飛ぶかどうかでその年の豊作や運気を占うというものです。

毎年、老人クラブの久保田秀一さんから指導いただいています。製作には時間がかかるために、今年は12月中に講習会を行い作製しておきました。

さいの神は1月の小正月に、道祖神を中心に茅やわら、書き初めや正月飾りなどをくくりつけ、一緒に燃やしながらか無病息災、家内安全、子孫繁栄等を祈る行事です。地域の方たちの協力を得て、今年も大きな「さいの神」を盛大に燃やし、みんなの健康をお願いしました。合わせて、「オンビロ」も空高く舞い上がり、子供達も嬉しそうでした。



<さいの神とオンビロ>

## 6 飛渡川にサケを呼び戻そう

今年度で8回目となるサケの飼育・放流活動は、中魚沼漁業協同組合の協力を得て行っています。今年は、水温を適温に調整することがうまくいかず、大きく育てることができませんでした。そこで、中魚沼漁業協同組合さんから少し大きくなった稚魚をいただき、一緒に飼育することにしました。サケの飼育で一番大変なのは、水替えです。稚魚が大きくなると水の汚れも早く、子供たちはチームに分かれ、ほぼ毎日水替えを行い、水質維持に気を配っています。水は地域の方から湧水をいただき運んでいます。テーブルの上にある水槽の水替えはとても大変ですが、交代で水替えを頑張っています。昨秋、子供たちは飛渡川下流で遡上してきたサケを実際に見学し、川底にサケの自然産卵を見つけました。自分たちの活動の成果を確かに確認できたことで、より一層取組に力が入りました。

後援会長さんも協力してくださり、水槽を置く低いテーブルを作ったり、適温を保てるようにヒーターを設置したりしていただきました。また、地域の皆さんも飛渡川のサケについて語り合っています。

「飛渡川にサケを呼び戻そう」の活動は、子供たち・地域に着実に根付いてきています。



<サケの発眼卵届く>



<孵った稚魚の飼育活>

この他にホテル観察会、星空観察会、ブナ林体験等もふるさと環境学習として地区公民館と連携し実施しています。この一連の活動を冊子にまとめたものが「飛渡のほたる」です。今回で19号となります。一昨年より、地区公民館が作成してきた地域文集「わらぼし」も合本する形で引き継ぎ、地域の方々、公民館関係の方々からも原稿を寄せていただいています。二つを合本形式にしたことで環境保全活動の記録とともに地域の文芸交流を担うものになっています。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）